



## 自分に気付き、未来を築くキャリア教育

日向市立日知屋東小学校 校長 中村 敏彦

こどもの教育を担う大人向けにキャリア教育に関する資料を表題のタイトルで作成した。参観日の学級懇談など保護者への話題提供や職員の研修に利用することをねらった。以下、その一部を紹介したい。

Q1 小学生にはまだ早い？

A いいえ、単なる就職指導ではなく、将来、自分自身や自分の職業に誇りを持ち、自活させることをめざすものです。

Q2 小学校でのキャリア教育は？

A 低学年では好きなこと、できることが一杯で楽しい学校生活。中学年ではみんなで一緒に活動し、自分の持ち味や役割を自覚する。高学年では挑戦しやり抜く力をもつとともに、夢や希望を広げ、集団の中での役立つ喜びや自信をもつ。

Q3 小学生の親は何をすればいいの？

A 人が自力で生きて行くには計画性と強い意志が必要です。しっかり勉強させ、生活力を見直し、社会や将来のことについて一緒に話をしてください。



## ～ 焦らず花を咲かせよう ～

日向市立美々津小学校 校長 瀧本 保孝

春は訪れましたが、まだ咲く時期がきていない花もあります。人もそれぞれに成長の度合いや育つ環境が違うのに、どうしても他人と比べてしまいます。そこで焦って投げやりになったり、手を抜いたりしていると咲く時期は訪れません。焦る心に打ち勝ち、置かれた場所で精一杯努力し、持ち味に合わせて成長しようとする子どもに育てたいものです。

今どの職業も複雑で多忙になり、ややもするとその職のマイナス面が強調されがちです。キャリア教育支援センターでは、その職本来の使命や喜びを熟知している方々が指導に当たってください。そうした活動を通して、子どもたちが生きる上での根幹に関わる学びを得てくれることを期待しています。



## 「金魚屋のさっちゃん」世界に行く！

サンシャインアカデミー 代表 藤江 幸子

上町商店街で生まれ育った「金魚屋のさっちゃん」は、アメリカ人宣教師との出会いにより、英語と外国への興味をもちました。学生時代のカナダでの1年間ボランティアの後、中学校で英語講師を務めましたが、結婚を機にアメリカ2年、アフリカ4年と海外で暮らす機会を得ました。そこで見たことを、故郷・日向の次世代に伝えたいと願っています。

世界を知ることは、自分を知ることです。「日向で暮らすから英語なんていらんちゃが～」という生徒が、学校に通うことができる恵まれた環境に自分がいること、日向で育っても世界に行けるんだよということ、そして「誰かのために生きる人生は素晴らしい」ということに気付くきっかけとなれば幸いです。



## 地域の大人が先生

日向市キャリア教育支援センター コーディネーター 二見 順雄

教育課程上時間確保が困難な「栽培体験」。「ならば、地域でこの体験活動を」と勝手に応援団誕生。活動は、毎月の第一、第三の土曜日。小学5、6年生を中心に子供30人、大人シニア生徒10名。4月から晩秋まで。季節の全野菜約30種類、スイカ、みかんなどの栽培体験をしています。入校条件が三つ。①二回続けて休まない(責任感、計画性、根気)。②収穫第一号は神様、仏様に(ご先祖に感謝、家族愛、命のつながり感)。③嫌い、苦手な野菜も作る(なぜ?～野菜への愛情がすごい結果に～証明済み)。ここには世代間の交流もあり、子供は土を耕し汗を流す。私共はこの活動を「地域版キャリア教育」と言っています。8年前に20名で始めた学校が、今年で228名の卒業生を送り出しました。



